

学生の皆さんへ「令和3年度の始業にあたって」（4月8日、校長講話）

おはようございます。校長の田村です。

本年度の始業にあたって、5分ほどお話しさせていただきます。

まずは、皆さん、体調は大丈夫ですか。コロナ禍にあって、ご家庭の事情など辛いことがあったら、一人で抱えないで、学生相談室や担任の先生に相談して下さい。また、周囲に問題を抱えていそうな人を見かけたときも、ぜひ、信頼できる大人に知らせて下さい。これまでも、学生の皆さんからの気づきやメッセージによって、いろいろなトラブルを抑えられたことがあります。勇気を出して、声を寄せて頂いた学生の皆さんには、心から感謝します。

コロナに関しては、もちろん、これからも感染予防はしっかりお願いします。適切なマスクの使用によって95%予防できるという報告もあります。万が一、感染者や濃厚接触者が出てしまったときにも、決して誹謗中傷など起きないように配慮ある対応を重ねてお願いします。

今年2月に発行された本校の校友会誌「青樹」でも、コロナ禍をテーマとした特集が組まれていました。そこには、

「今、自分に出来ることについて考え、そして、前向きに生きよう」と締め括った作品や、「オンラインでの勉強はどうすれば効果的か、体力が落ちるのを防ぐにはどうすれば良いのか」を考察したもの、そして、「積極的に生きなければいけない、今までが受動的すぎたと気づいた。」と、書かれたものもありました。これらの原稿には、コロナ禍も自分自身の成長の機会として考える逞しさが感じられました。

人は、災いに遭遇したとき、何気ない日常の大切さや素晴らしさを感じます。

東日本大震災が発生して10年が経過しましたが、災害で電気や水道などのライフラインを失ったときには、コップ一杯の水の大切さを知ります。災害や事故で家族を失ったとき、やり場の無い悔しさと、安全の大切さを痛切に感じます。

今、皆さんは、本校で学び、社会に出る準備をしています。社会に出るとは、平和な社会を維持する人、あるいは、より豊かな未来を切り開く人として、某かの役割を持つということです。

今はまだ、皆さんは大人が築いた社会の中で「守られている」立場にいます。つまり、社会に出るとは、守られる立場から守る立場になるということです。ぜひ、その責任を全うできる人になるための準備をやり遂げて下さい。困難を乗り越える力を身に付けてください。誰かのために汗を流すこと、責任を果たすことは、人として最も大切なことです。

さて、話題を変えて、一つ、お知らせです。一般教育棟のリフォームが完了し、この4月から使えるようになりました。そこには、全国の高専で初の5G基地局が設置されています。この設置を担当して頂いた先生には、学生が最先端の情報技術を感じることができる環境整備をお願いしました。ぜひ、最先端の技術を活用して下さい。でも、こうした超高速通信技術もAIもIoTも、「人と人の心をつなぐためのツール」であることを、くれぐれも忘れないで下さい。

最後に、先程の「青樹」に寄せられた原稿の中には「坊主生活」というユニークなタイトルの随筆もありました。「頭を坊主にしたからには、熱意に溢れた生き方をしていきたい。」と締め括ってありました。読み終えた後、澄み切った青空に一条（ひとすじ）の飛行機雲を見たような、とても爽やかな気持ちになりました。

どうか、頭を坊主にされた方も、そうで無い方も、熱意に満ちあふれた高専生活を送って下さい。

本日の講話は、以上です。ぜひ、皆でコロナを乗り越え、充実した1年にしましょう。



令和3年3月26日校長室前 桜九分咲き